

報告：原発問題をめぐる全体状況

＠第 93 回脱原発八千代ネットワーク定例会

2020 年 9 月 26 日 川井康郎

1. フクシマの状況

- (1) 9/20 福島県は双葉町に「原子力災害伝承館」を開館。53 億円の建設費で復興をアピールする 167 点の展示。被災や被害、責任等については多くを触れず。
- (2) 9/初、3 号機プールからの核燃料は 566 体のうち 336 体（6 割）を取り出し完了。
- (3) 9/18 東電は ALPS 汚染水からトリチウム以外の基準超え核種を取り除く実験を開始

2. 原子力規制と再稼働の動き

- (1) 稼働状況：運転中 3 基（大飯④、高浜④、玄海④）。定期点検中 3 基（大飯③、高浜③、玄海③）。特重施設設置期限による停止 2 基（川内①②）、仮処分による停止 1 基（伊方③）。10 月には大飯④が定検、高浜④が特重施設期限にて停止予定。国内稼働原発は 1 基になる？
- (2) 9/7 定検中の大飯 3 号機で一次冷却水配管溶接部の亀裂発見（長さ 67mm、深さ 4.6/14.0mm）。関電は次期定検時に交換したいとのこと。規制委員会にて審査中。
- (3) 9/2 規制委員会は 2013 年に建設完了している青森県むつ市のリサイクル燃料貯蔵施設（RFS）について新規規制基準適合と判断。RFS は東電と原電が両社の使用済み燃料保管のため今回の施設を完成させたもの。



3. その他のトピックス

- (1) 9/3 核のごみの最終処分場をめぐり文献調査への応募に前向きな片岡寿都町長と自重を求める鈴木北海道知事が面談したが意見はすれ違い。加えて、積丹半島付け根の泊原発に隣接する神恵内村商工会が文献調査を求める請願を議会に提出。
- (2) 9/16 日立製作所は英国 Wylfa での原発計画（1.35GW, ABWR x 2）からの完全撤退を決定。事業規模が 3 兆円を超え、事業パートナーも現れなかった。損失は約 3 千億円（計上済）。これで国内 3 社による輸出計画は全て破綻した（米国、トルコ、ベトナム、英国）。
- (3) 9/14 電力の安定供給を目的とした電力「容量市場」の入札結果が公表された。2024 年度の発電能力に対して、総量 167GW、単価 14,137 円/kW、総額約 1.6 兆円。必要額約 2 円/kWh は消費者や新電力にとって大きな負担となる。
- (4) 9/17 六ヶ所再処理とウラン濃縮工場にて核物質防護のために IAEA などが取り付けたワイヤーが切断されるケースが相次いだ（2008 年以降 7 件）。原燃は足場工事などの際に誤って切断したもので故意ではないと釈明。規制委員会は現地調査を予定。

<以上>